



Press Release

オルガノ株式会社
問合せ先

〒136-8631 東京都江東区新砂 1-2-8
経営企画部 企画グループ 七海 (TEL.03-5635-5111)

2008年12月3日

第2回オルガノ（水質及び水環境）奨学金の受賞者を決定

中国における水環境保全技術に貢献した研究者を支援する事業「第2回オルガノ（水質及び水環境）奨学金、通称：オルガノ賞」の最終選考会および表彰式が、2008年11月28日、蘇州の蘇州独墅湖図書館にて行われました。一次選考を通過した11名の中国在住大学院生の中から本年度の一等賞（奨学金10,000元）として倪丙傑氏（中国科学技術大学）、李棟氏（中国科学院生態環境研究センター）の2名を選出しました。また、二等賞（奨学金5,000元）として9名を選出しました。

【一等賞（奨学金10,000元）受賞者2名】（敬称略）

受賞者1	倪 丙傑 Bing-Jie Ni（中国科学技術大学、専攻：環境工程 博士課程）
タイトル	Formation Process, Function Mechanisms and Modeling of the Aerobic Granular Sludge
概要	好気性グラニュールの形成プロセス、機能メカニズムとモデリングに関する研究(排水の生物処理)
受賞者2	李 棟 Dong Li（中国科学院生態環境研究中心、専攻：環境科学 博士課程）
タイトル	Environmental Influence of the Discharge of Two Representative Antibiotic Production Wastewater
概要	2種抗生物質含有排水の排出による環境影響に関する研究

【二等賞（奨学金5,000元）受賞者9名】（敬称略、順不同）

常紅（北京大學）、李庭剛（中国科学院生態環境研究センター）、柳広飛（大連理工大学-四川大學 蘇州研究院）、龍峰（清華大學）、盧桂寧（華南理工大学）、譚小麗（中科院合肥物質科學研究院）、田家宇（哈爾濱工業大學）、楊慶（北京工業大學）、張慶端（南京大學）

○オルガノ（水質及び水環境）奨学金とは？

近年、中国では環境保護を重視しており、国を挙げて対応している。本事業は中国において水環境保全技術に携わる研究者の支援を目的に、業績を評価し優秀者を表彰する活動である。本年度は昨年に続く第2回目として、中国科学院生態環境研究センターおよび蘇州工業園区が主催し、オルガノおよびオルガノ（蘇州）水処理有限公司が賛助した。

参加資格は、中国在住の博士課程もしくは修士課程の大学院生。募集テーマは、水処理保全技術に関するものとした。奨学金は1等賞：2名各10,000元、2等賞：9名各5,000元、3等賞：19名各2,000元。

選考方法としては、書類による一次選考により優秀な成果を挙げている30名を選出。その中から特に優秀な11名を選び、最終選考へ進む。

最終選考はプレゼンテーションによる選考で、選考委員の投票により受賞者を決定した。

選考委員は関連分野の著名な専門家により構成され、選考委員長の中国科学院生態環境研究センター曲久輝所長・教授をはじめ、哈爾濱工業大學 任南琪教授、清華大學 胡洪宮教授、中国科学院生態環境研究センター 楊敏教授、西安建築科技大学 王曉昌教授、上海交通大學 張振家教授、同濟大學 周琪教授、華南理工大学 韋朝海教授、およびオルガノ開発センター企画管理部兼第二開発部明賀春樹部長が務めた。

○中国科学院生態環境研究センターの概要

1975年に設立され、前身は中国科学院環境化学研究所である。研究員は300名ほどで、所在地は北京にある。中国政府は1996年5月、同センターと国家環境保護総局を環境分野における主管機関に据えた。主な研究分野は環境化学、環境工学、システム生態学などであり、地域的なものから全国的、グローバルな重要生態と環境問題を研究・解決している。また同センターは、「環境科学学報」「Journal of Environmental Sciences」など国家自然科学重要刊行物と数種の海外出版物の中国語版の編集・出版なども手掛けている。



開会式の様子
中国科学院生態環境研究センター 曲久輝所長（左）、
蘇州工業園区管理委員会 蘇主任（中央）、
オルガノ 橋本喜代志社長（右）



一等賞受賞者 倪丙傑氏（中央）



一等賞受賞者 李棟氏（中央）

○蘇州工業園区の概要

蘇州工業園区は、中国とシンガポール両国政府間の合作プロジェクトによって設立された特殊政策の工業開発区。蘇州旧市街の東側にある金鷄湖の辺に位置し、上海から約 80km、面積はおよそ 260km²。優遇税制政策、外資プロジェクトに対する金額無制限の認可権限、独立する税関と輸出入通関機能等を揃え、高いインフラ整備率、豊富な人材、さらに優れた生活環境と勤務環境によって、IT 産業、精密機械、生物製薬、新素材等のハイテク産業が数多く進出している。産業振興と同時に水質汚濁防止政策など環境保全活動も活発に行っている。

以上